



国際交流員・チャールトン ジョン

最後の花道 / The Last Hurrah

広報記事を書くのは久しぶりだと思いますが、皆様お元気ですか。残念ながらあなたがこれを読んでいるとき私はもう日本を出発しています。この三年間、伊賀地域で様々な国際交流の仕事をしていただきましたが、8月に契約が終わって私は新しい所で新しい挑戦に応じるつもりです(シアトルです)。イチローによるしくと伝えておきます!

伊賀にきてから3年が経って、本当に伊賀にきてよかったと思います。私は、いい思い出がたくさんあって、将来に必ずもう一度伊賀を訪ねてきます。

伊賀にいた間、人生の広い範囲を経験しました(結婚式・葬式・子どもの出産など)。仕事を通じて政治家・警察官・スポーツ選手・忍者・困っている人・恋に落ちた人・教師・子ども・お年寄り・ホテル経営者・老兵・記者・音楽家・養護施設の担当者などの方と働くことができました。大学卒業後の初めての仕事として、もっといい仕事はあるだろうか。そして、大人としてもっといい始め方はあるだろうか。私はそう思いません。

今年、私は文化国際課の同僚のダニエルさんにお世話

になりました。これから伊賀市の国際交流員は一人になります。ダニエルさんによるしくとお願いしたいと思います。なくなって寂しいことはきっと色々あるのですが、やはり伊賀の皆様とお別れするという事は一番寂しいですね。他には?ま、他の好きなことは日本のきれいな建築・ウォッシュレットトイレの暖かい席・回転寿司・焼酎・新幹線・スナック菓子・静けさなど・・・

伊賀にいた間、バーズ・ナイト、フランス語教室、英国風アフタヌーンティー、忍者ウォーク、ハロウィーンの行事などを行いました。様々な国の習慣や文化を勉強しながら日本のこともいっぱい勉強できてよかったと思います。伊賀の皆様も同じだと希望しています!私の同僚と友達、そして伊賀の皆様にお礼を言いたいと思います。私にとって、この3年間は大事な時で本当に感謝しています。

最後に一人のいい男に敬意を表したいです。私の1年目の担当者は残念ながら若くして亡くなりましたが、私は彼のことをけっして忘れません。この旅が終わっても新しい旅が始まるのですよね。皆様、この3年間ありがとうございました!また会えますように。

May we meet again some day. This is for you D.I.



気づき見つめなおすとき (前編)

先日、ある人権研修会に参加しました。講師は、現在、山口県人権啓発センターに勤務し、仕事の合間をぬって執筆活動や全国各地で講演しておられる気さくな27歳の好青年でした。
その講演では、彼自身が同和地区出身という立場を知ったときの思い、中3のときクラスで自分が部落出身である事を伝えた時の思い、いろいろな思いを聞かせてくれました。その中で私自身涙があふれ出たお話があります。
彼が高1、彼の姉が高3のときの事。スーパーヤンキーだった姉が、生まれて初めて人権作文で市から表彰状をもらったとき、彼のばあちゃんは表彰状をコタツの上に広げ、その作文を涙流しながら目を真っ赤にして大喜びで読んでいた。一時間くらいは、「先に寝るね」と声をかけ、ばあちゃんの顔をのぞき込んだ時びっくりした。ばあちゃんは姉の作文を読んでいるのではなかった。ただ一点だけ姉の名前をしっかりと見つけて、何時間も作文をながめていた。ひよっとして、ばあちゃん字読まれへのちやうかとハッとしました。その瞬間いろんな事がよみがえってきた。そういえば、ばあちゃん

明日 に向けて

～差別をなくしていくために～

年賀状なんか書いた事ない。市役所へ行くときは、いつも親父と一緒。買い物に行くときは、いつも札を出す。その事に気づいた瞬間「ばあちゃん、オレ読んだらか?」と声が喉元まできたけど出ない。何も言えないまま部屋に戻った。数日後「おやすみ」と部屋をのぞくと、また、ばあちゃんは作文をながめて涙流して喜んでた。その姿を見た時、もう絶えられなくなり、「ばあちゃん、オレ、読んだらわ」とばあちゃんの手から作文をとり読み始めた。いろいろな思いが込みあげてくる中、一文字一文字読んでいった。全部読み終えて、ばあちゃんに聞いた。「ばあちゃん、ばあちゃんには差別受けた事ないんか?」ばあちゃんはかたくなに「差別なんか受けた事ない、受けた事ない」と泣きながら否定するばかりだった。
差別発言や差別落書き、結婚差別、そういった「見える差別」だけではなく、差別は見ようとしない、見れば見えないし、見抜く力がないと「見えない差別」があるという事を気づかせていただいた講演でした。

(阿山支所生活環境課)